



第1図 遺跡位置図 (1/16000)

IV 駒林遺跡試掘調査(1)

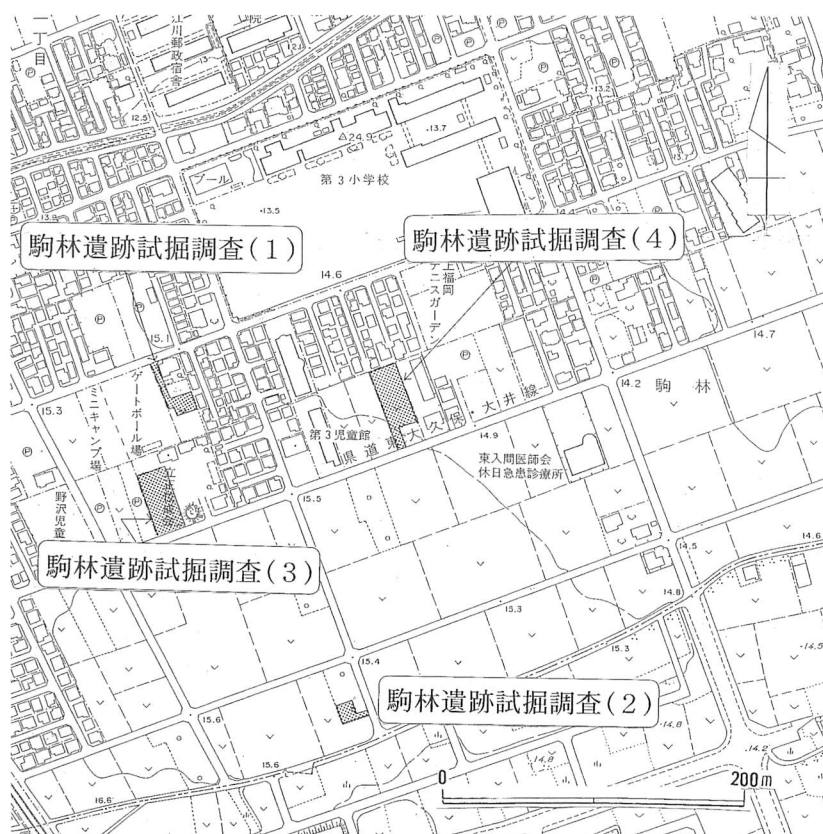
所在地	駒林字南原424-2の一部、 -20の一部、-23
原因	個人住宅の建設
調査面積	330.38㎡
調査期間	H11.4.9.
調査担当	柳沢健司
出土遺物	なし
遺構等	なし



駒林遺跡試掘調査(1)作業風景（北より）

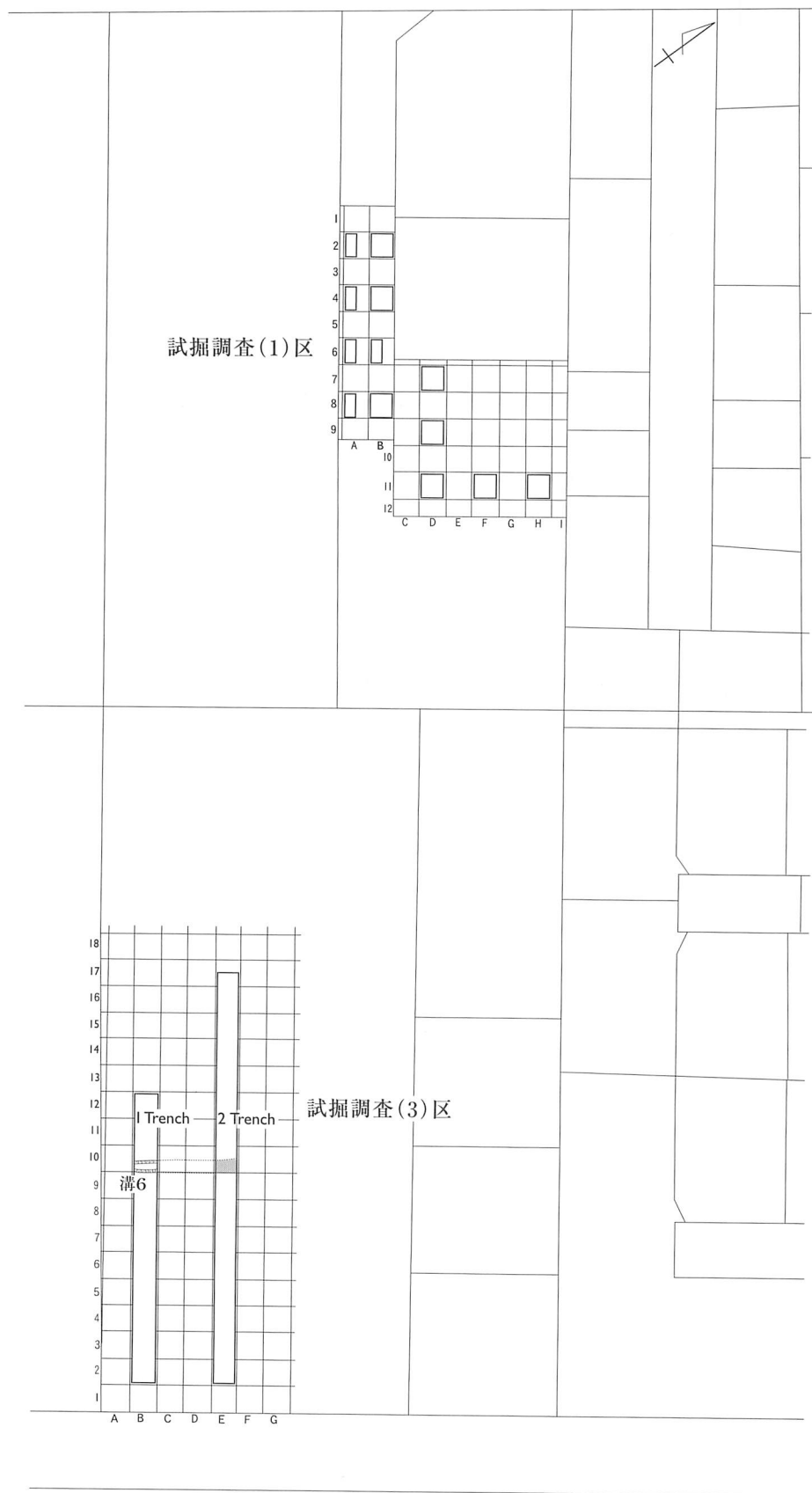
駒林遺跡は、福岡江川の南側に広がっており、江川よりやや小高い場所に立地していると推察されてきた。しかし、実際のところ1986年の第1次調査、1995年、1997年実施の試掘調査によって時期不明の溝が計5条確認されているのみで、その性格については、決定的な決め手がない。

さて、今回調査をおこなったのは、溝が2条確認された1997年度試掘調査③区の南東450mで、標高15mを測る地点である。



現地地形は平坦であるが、400～500m東方から西へ向かってゆるやかに2mほど高くなっている。4月9日、図示したように私道の砂利敷き部分の途切れる南端の土地境界杭を基準に南へ向かって1～11区、東へ向かってA～J区を設定し1区おきに表土除去作業を行った。概ね地表から30～40cmほどでローム面に達した。ローム面を精査したが遺構も遺物も確認されなかったので当日中に調査を終えて器材を撤収した。

第5図 駒林遺跡試掘調査区位置図（1／5000）



第7図 駒林遺跡試掘調査(1)区、(3)区全測(1/500)

Ⅵ 駒林遺跡試掘調査(3)

所在地 駒林字南原420-1
原因 礼拝堂（道場）建設
調査面積 1322㎡
調査期間 H11.7.1.
調査担当 柳沢健司
出土遺物 なし
遺構等 溝1条（近世～現代）



駒林遺跡試掘調査(3)作業風景
（南より）

当調査区は、4月に実施した試掘調査(1)区の南50m未満の地点にあたる。図面上で南西土地境界杭を基準に東へA～G区、北へ向かって1～18区を設定した。7月1日、現地にて幅2mのトレンチを設定し、重機により表土を除去した。第1トレンチの北側より幅70～80cmほどの溝を1条確認した。プランが直線的であることから、近世以降でもかなり新しいものと思われる。遺物は確認されなかった。当日中に調査をすべき遺構が所在しないと判断されたので、第2トレンチのローム面精査が終了した時点で調査を打ち切り、直ちに重機で埋め戻しをおこなった。

Ⅶ 駒林遺跡試掘調査(4)

所在地 駒林字南原344-2
原因 共同住宅の建設
調査面積 785.79㎡
調査期間 H12.1.18～20
調査担当 柳沢健司
出土遺物 なし
遺構等 溝1条



駒林遺跡試掘調査(4)作業風景（東より）

調査区は、平成4年度に実施した試掘調査区の30m東の地点にあたる。1月18日、北東土地境界杭を基準に南へ1～25区、西へA～I区を設定し第2区列より1区おきに人力にて表土除去作業をおこなった。概ね地表面より20～30cmでローム面が確認された。I-16区にて溝状遺構が確認されたがG区以东には延びていない。遺物は、確認されなかった。20日に埋め戻しを完了して器材を撤収した。